

概要報告

実施期日	令和8年8月5日(水)
部会名	中学校 外国語活動・外国語部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
(含む個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実)

テーマ

『コミュニケーションを通して国際理解を深め、英語力を高める』

提案概要

「受信・即興型ミッション」と「発信・会話型ミッション」を設定し、生徒がそれぞれの役割を選んで台湾の中学生とオンラインで交流する。授業の中では、英語が苦手な生徒もコミュニケーションに対する積極性を見せて、即興で自分の知っている単語を使って工夫しながら取り組む姿勢が見られた。授業後に生徒に行ったアンケートでは、「実際に活用した」という実感から、英語の授業に対する変容が見られた。授業を通して、「知識を蓄えるために学ぶ授業」から「知識を活用するために学ぶ授業」に生徒の意識が変わった姿が見られた。今後の課題は、生徒の心理的障壁をさらに低減するための事前指導を充実することや、生徒の参加度の格差を軽減するために発話順を構造化するなどの工夫が考えられた。

質疑応答

- Q1. 台湾の中学生とは、どのような方法で連携したのか。
A1. 提携した業者名の案内と、費用については、鎌倉市の「スクールコラボファンド」を活用している。
- Q2. 中学校の言語活動と受験勉強のバランスは、どのくらいの割合か。
A2. 各学校、教員の裁量にもよるが、言語活動を5割以上にしていきたい。
- Q3. ねらいの異なるグループの評価はどのようにつけるのか。
A3. 成績に残す評価ではなく、フィードバックを伝えることで今後の学習につなげている。

協議の柱及び協議概要

『自分の思いを伝えたいような学習環境づくり』

協議1と協議2の2回に分けて行われた。協議1においては小中の先生方が同じグループになって、外国語の授業をする上での「共通点」と「違い」について話し合った。共通点は、どちらもゲームを用いたり、状況や場面設定の工夫で実際の場面に近づけたりすることで児童生徒の興味関心を引き出す努力がなされていた。違いとしては、どこまで深く教えるか、定着させるための活動の多寡があげられた。

協議2においては、小学校のグループと中学校のグループに分かれて行われた。それぞれの学校で行った授業でよかった実践例や、授業を行う上での悩みについて話し合った。生徒の作品を掲示して、生徒が投票、表彰をすることで周りの子からの評価がわかり、学習意欲につながった例が挙げられた。また、共通の悩みとしては、生成AIを使用した英文をどのように扱うかで様々な意見が交わされた。

まとめ概要

今回の提案では、台湾の生徒との交流を通して、即興性のあるコミュニケーションが行われた。本実践は、思考・判断・表現の連続で、文脈の中で知識を結び付けて活用する必然性のある授業の一例だった。授業の中では、生徒同士が協力し支え合う関係性を自然に学ぶことができていた。困難さと不全感を共有することが、その関係性を成長させるヒントになっている。「英語は必要だから学ぶ」という手段としての学習から「相手とわかり合いたいから学ぶ」という目的としての対話へ意識が変容していった様子が見られ、学ぶことの意義を生徒が実感できたことも大きい。台湾の生徒との交流を通して、「世界を知り・他者を知り・自分を知る」活動ができていた。通じ合う喜びや試行錯誤を大切に、「社会的想像力」を養うことを通して、多様な他者と対話し合意形成を行うための基盤を築き、多様性の包摂と、民主的で持続的な社会の創り手の育成へとつなげていきたい。